

子育てかわら版

所沢市立宮前小学校
令和6年度

No.07



「やばい」「えぐい」は本当にまずい! 語彙力を高めて表現力アップを

最近の子供たちの会話の中に「やばい」「えぐい」という表現が多く登場します。また、「まし」「かわいい」「うざい」などの言葉も多用されています。本来の意味とは違った形で使われていることに、日本語という言語の危機を感じます。正しい日本語を使って、自分の思いを相手に伝えるにはどうしたらよいのでしょうか。

1 若者が使う言葉を分析する

① 「やばい」

危険な目にあった場合 「やばい」
うれしい場面でも使う 「やばい」 } 正反対のことを「やばい」一つで済ませる

② 「まし」…本来は「真面目にそう言っている(考えている)の？」

驚いた、正しい、必死に取り組むなどいろいろな意味で使われています。

③ 「かわいい」

サイズが小さいもの 気持ちを和ませるもの 守ってあげたい可憐さ
見た目が変わっているもの 何でも「かわいい」でひとくくりにされています

◎友達同士で使うのは楽しいことかもしれませんが、これから心身ともに成長していく子供たちには、たくさんの「言葉の引き出し」が必要です。語彙力を高めてほしいのです。

2 本当に伝えたいことは何か

実社会の中ではコミュニケーション能力が強く求められています。相手に伝える時、適切な言葉が使える、自分の思いを正しく伝えることはとても重要です。語彙力があれば、自分の中の繊細な部分も、相手に伝え分かってもらうことができます。



3 言葉は「考えを深めるツール」

言葉の引き出しがたくさんある

- ・物事を生活に伝えられる
- ・思考を深めることができる
- ・気持ちの安定にもつながる

自分の意見や感情を適切な言葉で伝えられない＝大きなストレス



なんだか苦しい
何となくモヤモヤしている
それを表す言葉が見つからない

◎「語彙力」は自己肯定感を高める上で、大人になっても使える強い武器となる

4 語彙力アップに「読書」を

① 本を読む環境を整える

日常会話で使う言葉は約 500 語 本には 50000 語ほどの言葉
→本を読まないと手に入らない言葉がある

② 読書は「おもしろい」と思わせる

- ・子供がワクワクする本を選ぶ(入り口はマンガでもよい)
- ・徐々に活字が多い本に親しんでいく

③ ちょっと背伸びをさせてみる 自分が読みたい本

→大人が面白いと勧める本



5 語彙力が自然に身に付く「音読」のススメ

名作と言われる文学作品を音読してみる

→初めはわからなかった言葉の意味も、繰り返し音読しているうちに理解できるようになる

◎自然に語彙力を身に付けることが大切

